

今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成30年度高岡南高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	進路支援
重点課題	<p>(1) 3年間を通して挑戦する気持と諦めない心を育成するとともに、全校協力態勢のもと粘り強く最後まで指導し、生徒の第一志望校(願書出願をした大学の中で最も行きたい大学)合格を支援する。</p> <p>(2) 一人一人の生徒を理解して実態を的確に把握した上での学習習慣の育成や進路指導が重要という意味で、面接指導の充実を図る。</p>
現 状	生徒の持っている素質や能力からすると、十分に生かされたとは言い難い進路結果である。安易な方向に流れて学習が継続できなかつたり、目標を諦めるのが早く、最後まで挑戦する気持を持ち続けられない生徒が少なくない。
達成目標	<p>(1) 生徒の第一志望校(願書出願をした大学の中で最も行きたい大学)合格率</p> <p>(2) 生徒1人あたりの面接実施回数(担任、副担任、授業担当者)</p>
	<p>卒業生数の65%以上</p> <p>1・2年生：6回以上 3年生：12回以上</p>
方 策	<p>(1) 学習時間のスタンダードは、<平日：1年・2時間、2年・3時間、3年・4時間><休日：1年・4時間、2年・6時間、3年8時間>とし、全体に周知を図りながら学習時間を位置づけた生活習慣を身につけさせる。なお、3年生は体育大会後は平日5時間、休日10時間を標準とする。</p> <p>(2) 1年生の初期指導を重視する。また、面接週間以外に校外模試の自己採点時での面接を必須とするなど面接指導を通して生徒の気持ちを前向きにさせる。</p> <p>(3) 大学入学共通テストに対応し、定期考査の約1割は思考力を試す設問とするなど、授業やテストを通して思考力の養成を図る。</p> <p>(4) 高い志望校の設定を指導しながらそれを貫かせるように支援する。また、そのことを通して挑戦する気持と最後まで諦めない心の育成を図る。</p> <p>(5) 校内外テストの成績状況や結果を分析し、今後の指針となるような資料を作成するとともに校内全体で各学年の情報を共有できるよう努める。</p> <p>(6) 3年生の進路支援を全校協力態勢を確認しながら充実を図る。特に、センター試験後の2次試験対策を強化し、生徒の第一志望校合格を支援する。</p>

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

平成30年度高岡南高校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活
重点課題	自主自律の精神に満ちた品格のある生徒集団の形成
現 状	(1) 礼儀、時間の厳守、身だしなみなど南高校生としてふさわしい品格が身についている生徒が増えてきている。 (2) 生徒が主体的に関われる活動が増え、活発に取り組む生徒が増えてきている。
達成目標	(1) 礼儀、時間の厳守、身だしなみなど、南高校生としてふさわしい品格が身についていると感じている生徒の割合 90% (2) 学校生活に主体的に取り組んでいると感じている生徒の割合 90%
方 策	(1) 日頃の登校指導や声掛けの中で、あいさつ・身だしなみ、時間厳守等の意識の向上を図る。 (2) 外部講師や保護者から着こなしやマナーについて指導していただく機会を設ける。(マナーセンスアップ教室、さわやか運動など) (3) 生徒が校訓の理念を理解し、それにふさわしい行動ができるよう、生徒会執行部や校紀委員会を中心に多くの生徒が企画、運営に関われるよう工夫する。 (4) 現代の社会問題について外部講師から指導していただく機会を設ける。(薬物乱用防止教室、ネットトラブル対応教室など) (5) 部会の定例化や学年との連携を密にすることで、学校生活の問題点や情報を共有しながら、日常的に学校全体で協力して指導する。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状よりわるくなった

平成30年度高岡南高校アクションプラン - 3 -	
重点項目	学校の活性化
重点課題	将来への大きな志を持ち、意欲的に学び活動する生徒の育成
現 状	(1) キャリアデザインプロジェクトSで、自らの生き方や在り方を考え、将来への目標を持たせるような授業を展開している。 (2) 生徒会執行部の広報部を中心に、学校行事を地域へ知らせ参観を求めている。近年、目標を高く目標掲げようになっているが、さらにその目標を明確にし、仲間と協力し合って、より積極的に学べるように工夫の余地がある。また、地域へ公開することで、社会的な視点を持つ活動へと高められる。
達成目標	(1) キャリアデザインプロジェクトSを通じて、進路目標が明確になった生徒の割合80%以上。 (2) 学校行事に際し、地域住民に対しての広報活動を行い、多くの参観を求める。
方 策	総合的な学習の時間において、地域の方や同窓生、保護者、大学の教授などの活動を伺う機会をもち、広い視野で将来の目標を考えられるようにする。 体育大会・南高祭において、地域住民へ事前にプログラム等の配布を行い、参観の環境を整える。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。

平成30年度高岡南高校アクションプラン - 4 -	
重点項目	ボランティア活動
重点課題	1 学年：生徒のボランティア意識の向上 2 学年：自発的なボランティア意識の向上 3 学年：地域と連携したボランティア活動への意欲的な取り組み
現 状	1 学年：これまでのボランティア活動への参加が5割程度 2 学年：昨年度のボランティア活動への参加が学年の8割程度 3 学年：ボランティア活動への参加が学年の7割程度
達成目標	1 学年：1年生全員がホームルームその他のボランティア活動に参加する。 2 学年：全クラスがホームルームでボランティア活動を計画し実践する。 3 学年：地域と連携したボランティア活動への参加が学年の8割程度
方 策	1 学年：①身近なボランティア活動を考え実践する。 ②ホームルームや生徒会のボランティア企画に参加する。 2 学年 ①身近なボランティア活動をクラス単位で企画し実践する。 ②校内外のボランティア活動の情報提供に努める。 3 学年：①全クラスがホームルームで地域と連携したボランティア活動を実践するよう計画を立てる。 ②生徒会のボランティア企画への積極的な参加を促す。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

平成30年度高岡南高校アクションプラン - 5 -	
重点項目	教師力向上
重点課題	教科、学年、年代を超えて学び合う組織作り
現 状	(1) 互見授業などを活用し、教科、学年、年代を超えて授業を参観する機会が増えてきたが、互いに学び合う場としてさらに工夫の余地がある。 (2) ここ数年で増加した若手教員に対する育成体制が整いつつある。 (3) 県外における学校視察や授業研修の機会が減少している。
達成目標	(1) 他教科の授業を含めた互見授業参観2回以上 (2) 若手教員と中堅教員、ベテラン教員が相互に学び合う校内研修の実施回数2回以上 (3) 県外の学校視察や授業研修への参加2名以上
方 策	(1) ①互見授業期間に各教科1名以上の指定公開授業を行う。 ②他教科の授業を含めて、授業を2回以上参観する。 ③報告書を書くことで自分自身の学びを確認する。 (2) 年次研修を活かした、若手教員と中堅教員、ベテラン教員が学び合う校内研修を実施する。 (3) 年度当初より計画的に県外視察等の予算を確保する。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった